

山口県文書館所蔵史料案内

(一)

山口県文書館に所蔵されている史料は約二〇万点にのぼる。これらの史料は次のように十五群に分けて整理されている。

- (1) 毛利家文庫 所蔵史料の中核をなすもので萩藩政・毛利家関係の記録。(五万点)
- (2) 徳山毛利家文書 徳山藩の藩政記録。(三万点)
- (3) 県庁旧藩記録 置県時、旧藩より県に引きつがれた記録で毛利家文庫の姉妹史料。(五千点)
- (4) 山口小郡宰判記録 代官所の記録。(六百点)
- (5) 武家文書 当館創設以来収集につとめてきた史料群で庄屋文書 家分け整理をしている。(三・五万点)
- (6) 県庁記録 明治初期からの県庁行政文書。戦前・戦後に大別して整理している。(四・四万点)
- (7) 郡役所記録 郡役所文書で大正十二年郡制廃止後県に引きつがれたもの。(二・三千点)
- (8) 三卿伝史料 毛利元就・吉川元春・小早川隆景の伝記 編纂史料。稿本。(二千点)
- (9) 両公伝史料 毛利敬親・元徳の幕末維新期の業績を編纂するため収録した史料。稿本。(一・五千点)
- (10) 県史編纂所史料 県史編纂所(昭和二十年廃止)で収集された史料。(二・五万点)

所蔵史料案内

(12) 諸家文庫史料 近藤清石・御蘭生翁甫・滝口明城・吉田樟堂・田中義一ほかの各家から寄贈された史料をそれぞれ別置している。また田村照子コレクションを中心とした教科書も特置。(一・二万点)

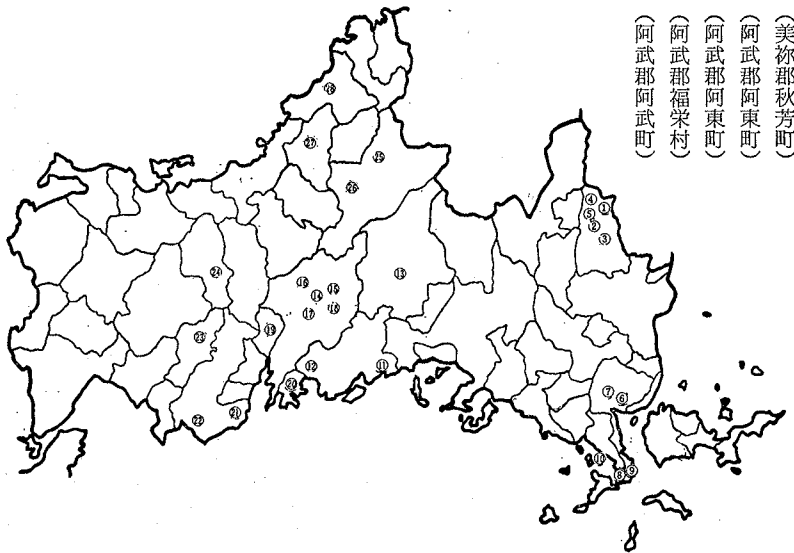
(13) 一般郷土史料 県立山口図書館で収集した史料が移管されたもの。(二千点)

(14) 貴重史料 特に保管に注意を要する貴重なものを集める。吉田松陰・大村益次郎・山内首藤家・興隆寺・常栄寺・三浦家・厚狭毛利家などの文書がある。また、(5)(6)のものでも貴重なものはこれに入れである(石田本源氏物語・長門本平家物語など)。(九百点)

(15) 図書・研究書、市町村史などの刊本類。(六千点)
このほかに新聞・雑誌・パンフレットがある。点数は概数。以上の各史料群は毛利家文庫を手初めに目録刊行が計画(現在毛利家文庫目録第一〜三分冊刊行済)されているが完成するまで長期の期間が必要である。そこで、「研究紀要」で数回に分けて所蔵史料の案内を行なうことにした。
今号では庄屋文書(畔頭・町方・浦方の各文書も含む)を紹介する。記載順は地域により東部から並べる。次頁に索引地図を掲げる。次号では、庄屋文書の残りとして武家史料を紹介する予定である。

- | | | | | | |
|----|---------|-----------|----|-------|----------|
| 1 | 藤本家文書 | (玖珂郡美和町) | 24 | 坪井家文書 | (美祿郡秋芳町) |
| 2 | 中村家文書 | (玖珂郡美和町) | 25 | 市原家文書 | (阿武郡阿東町) |
| 3 | 柳原家文書 | (玖珂郡美和町) | 26 | 大谷家文書 | (阿武郡阿東町) |
| 4 | 貞時家文書 | (玖珂郡美和町) | 27 | 岡家文書 | (阿武郡福栄村) |
| 5 | 谷口家文書 | (玖珂郡美和町) | 28 | 上村家文書 | (阿武郡阿武町) |
| 6 | 小田家文書 | (柳井市金屋) | | | |
| 7 | 小田家文書 | (柳井市和田) | | | |
| 8 | 吉崎家文書 | (熊毛郡上関町) | | | |
| 9 | 吉田家文書 | (熊毛郡上関町) | | | |
| 10 | 佐川家文書 | (熊毛郡平生町) | | | |
| 11 | 富海浦漁業史料 | (防府市富海) | | | |
| 12 | 上田家文書 | (防府市大道) | | | |
| 13 | 宇多田家文書 | (佐波郡徳地町) | | | |
| 14 | 安部家文書 | (山口市道場門前) | | | |
| 15 | 河野家文書 | (山口市古熊) | | | |
| 16 | 野村家文書 | (山口市吉敷) | | | |
| 17 | 金子家文書 | (山口市黒川) | | | |
| 18 | 金津家文書 | (山口市矢田) | | | |
| 19 | 林家文書 | (吉敷郡小郡町) | | | |
| 20 | 山内家文書 | (吉敷郡秋穂町) | | | |
| 21 | 部坂家文書 | (宇部市東岐波) | | | |
| 22 | 桜井家文書 | (宇部市藤曲) | | | |
| 23 | 三隅家文書 | (厚狭郡楠町) | | | |

史料索引地図



1 藤本家文書

玖珂郡美和町 藤本英夫 原蔵
寄託 昭和42年8月24日 約一〇〇点

藤本家は岩国藩釜ヶ原村の庄家であった。所蔵文書の多くは村境に関するものである。その中には草刈場の絵図作成の磁石方位立の記録(文化九)があり、それに使ったと思われる測量用磁石が付属している。土地、貢租関係の史料は少ないが、天正九年の「藤谷之内厳島大願寺領」の坪付帳、元禄期の水帳などが珍らしい。その他、領主の巡回、御旗関係、御境川年貢通船控、河内大明社旧記、毎年神事人別帳などの記録がある。

3 柳原家文書

玖珂郡美和町坂上(長谷村) 柳原禎彦 原蔵
寄託 昭和36年1月16日 一八九点

維新期の柳原家当主者十郎は、長谷村庄屋・坂上撫育所御用掛・第三大区戸長などを勤めている。史料中には、幕末・明治初期の村内行政関係、坂上撫育所関係(特に撫育使「玉乃東平日記」等)のものが多し。また、坂上地方の農兵隊北門団に関する史料も含む。

2 中村家文書

玖珂郡美和町 中村 侃 原蔵
寄託 昭和42年8月24日 一八一点

岩国藩の紙流通関係の史料が多い。「諸所御用紙請払帳」「御紙上荷賃おぼえ帳」「半紙請払帳」「御紙入日記」「船運送手形控」「楮苗植附仕組問答」など。特殊なものとして「吉川家聞書」「今津御役所諸事覚」「興正寺一儀江戸御沙汰之趣」「文化三——寺僧処分に関する記録」「根笠緑鬚請払帳」「穀類塩口銭増銀差曳」などがある。

4 貞時家文書

玖珂郡美和町 貞時 博 原蔵
寄託 昭和42年8月24日 一五一点

萩藩奥山代宰判秋掛村の畔頭文書である。文書のはほとんどは貢租関係のもので、「田畠椿春定名寄帳」「御米請払人別根帳」「御紙渡立権人別把算用帳」(安政〜明治初)「新請荒畠小村絵図」などがある。

5 谷口家文書

玖珂郡美和町 谷口敏治 原蔵

寄託 昭和42年8月24日 八六六

萩藩奥山代宰判生見村の庄屋文書である。實祖・出納関係の帳簿が多い。年代は宝暦から明治初にわたる。主なものを列記すると「御蔵入田方小村帳」「米銭貸借諸取小払算用帳」「御米御蔵入日記」「楮米人別分帳」「春定名寄帳」それに疫神社関係、河内大明神社関係、雇人日記、和暦などがある。

7 小田家文書

柳井市和田 小田春野 原蔵

寄託 昭和40年1月1日 約三六〇点

小田家は岩国藩領柳井村において代々庄屋役を勤めている。文書の中で特に目につく事は、水車関係の文書が多くあり、江戸期の重要な動力源であった水車の支配権をもっていた。「水車搗米規定」や「水車水路工事」関係文書など当時の地方機構の一端をうかがう事ができる。また、明治期の耕地整理関係の文書も若干ある。その他小田家関係では「当年代々日記」「見聞書記」「小田家行事覚」「献立覚」など、当時の庄屋の生活や行事などがうかがえる。

6 小田家文書

柳井市金屋 小田善一郎 原蔵

寄託 昭和47年11月17日 約千点

小田家は岩国領柳井津に於て町年寄を勤め、明治期には貴族院議員をも勤めた豪商である。江戸期油業を営み、その家は商家の構造をそのまま残している。文書は文化文政期以来の店の経営を伝える「棚卸帳」と地主としての経営面を伝える「田畠下作控帳」がその中心をなし、その他町年寄としての行政面を伝える「町中御簡条」などがある。また、寺子屋の教場でもあった関係上「商人往来」など当時の寺子屋の教科書が残っている。

8 吉崎家文書

熊毛郡上関町室津 吉崎謙一郎 原蔵

寄託 昭和46年9月27日 四二九点

吉崎家は室津浦で肥後屋を称して問屋業を営むかたわら、庄屋役も勤めた。幕末には倒幕運動にも理解を示したから勤皇志士もたびたび滞在したという。当文書は室津、尾国両村の村治史料を主とするほか、酒、織物、米など商業関係史料もある。室津浦出入の飛船・廻船等の差出沙汰書も多く、要津としての室津浦の機能を具体的に知ることができる。また、同浦の遊女に関する史料も若干ある。祝島の古来よりの名産「こっこう」「蓬萊杖」の由緒書も珍らしい記録である。

9 吉田家文書

熊毛郡上関町室津 吉田文熊 原蔵

寄贈 昭和40年1月1日 一八〇九点

吉田家は享保初年から室津浦年寄役を勤め、大庄屋格となった旧家で、室津、尾国村を支配した。したがって両村の村治関係史料が中心であるというまでもないが、室津港が瀬戸内航路の要地である関係上、寄港する諸藩の船に関する記録、たとえば「薩州日帳」や「他国穀受払帳」などがある。また、幕末になると、「砂糖小売仕法」や「櫛実売買仕法」など国産品取扱いの史料も少なくなく、室津を中心とした幕末の商品流通の解明に資するところ大である。

11 富海浦漁業史料

防府市富海(富海村) 防府市教委社会教育課

寄託 昭和33年6月16日 約五〇点

富海浦は正保二年に岐波浦と、その後、串ノ浜・向島・田島・笠戸浦などと文政期に至るまで、漁業権をめぐる相論を十数度にわたって展開している。右は、その相論関係史料及び漁民生活関係史料。

10 佐川家文書

熊毛郡平生町佐合島 佐川助三郎 原蔵

寄託 昭和37年8月31日 五九二点

佐川家は藩政初期から佐合島の庄屋・畔頭役を勤めてきており、所収文書は慶安元年「佐郷島田畠屋敷人別坪付」以下幕末に及ぶ。当文書は、佐合島という一つの島に関する、最もまとまった史料であるだけでなく、当該地域の漁業・海産物に関する豊富な史料を含む点で注目される。海上交通関係では、「信使来朝帰帆語録」など、朝鮮信使往来時の準備記録が多い。地方関係では貞享・宝暦検地の野取帳以下村治全般にわたる。なお、平生図書館にも佐川家文書の一部が架蔵されている。

12 上田家文書

防府市大道 上田源太郎 原蔵

寄贈 昭和15年 約八五点

吉敷郡台道(小郡宰判)において庄屋役、大庄屋役を勤める。文書は文政期以降の「小郡宰判内諸村小貫割符帳」「諸村修補銀銭請払算用帳」「小郡御宰判地下役人名録」など村役人当時の公文書が大部を占め、その他「大庄屋元日記」「上田家累年勤功仕出控」「田畠加調并貸家賃取立帳」など文書は多岐にわたっている。

13 宇多田家文書

佐波郡徳地町島地 宇多田氏 原蔵
寄贈 昭和15年 約六〇点

徳地宰判島地村において、庄屋役を勤めている。宇多田家文書の中でその中心をなすものは、徳地紙に代表される島地村の紙関係文書である。「椿苗仕詰帳」「諸村売紙御連上銀仕詰一紙」「御紙津出駄賃銀請払一紙」「難波者開立之椿屋并ニ請紙高江対シ椿苗被立遣候一件」など、一連の紙に関する文書は、藩の徳地紙政策やその流通の一端をみる事ができる。その他には明治初年の異達書や村役人当時の村の公文書が若干あり、宇多田家の萬控帳が江戸後期を中心にみえる。

14 安部家文書

山口市道場門前 安部忠行 原蔵
寄贈 昭和28年9月13日 約千点

安部(あべ)家は山口市吉田鎮座の平清水八幡宮の惣貫首職に補任せられた建仁元年(一一〇一)の古文書を有する山口屈指の旧家の一つである。中世の事歴は史料を欠くが、近世初期から山口町人として道場門前で紺屋業から酒造・質屋・両替屋・木綿その他の物産取引の業を兼ねて営んでいた。また、毛利藩一門寄組士へ金銀の用達、公共事業への米銀の投入といった役儀向の尽力によって山口町大年寄格に挙げられ、安部家の居

宅は藩から本陣に指定されるに至った。こうした家業や役儀上の文書記録が多い。

なお、安部家の歴代は文学にも関心が深く、長門本平家物語・初編本老葉・宗牧独吟千句などの伝写本が多く、連歌・俳諧には地方的特色のある文献が残されていて、共に国文学史上の史料としても興味深いものを蔵している。

15 河野家文書

山口市古熊 河野通則 原蔵
寄贈 昭和38年10月 七八七点

河野(こうの)家は山口古熊居住の畔頭役を勤めた家柄であるが、江戸中期以前の史料は伝わっていないので不明である。宝暦三年(一七六三)の家屋敷売渡証文が一番古く、以後は田畠売渡証文・頼母子帳・掛取帳・万覚帳などの私文書類が多い。なお、阿知須浦開作関係史料が一〇〇点余り残っているのは注目し値いする。明治以後は上宇野令村会議員になっていたため村役場からの通達物が多いが、私的蒐集物で量的に多いものは、山口県の相撲関係史料(明治一〇年代)、防長新聞、長周日報、あなか新聞(いずれも明治三三年代)などは面白い史料であろう。

また、明治六年から同一八年に至る山口県の地券五五枚が残っており、江戸期の河野家の田畠耕作地の史料との関連において耕地の変遷を知る好史料であろう。

16 野村家文書

福岡市警固町一丁目 野村一保子 原蔵
寄贈 昭和47年5月 一、三九九点

山口宰判吉敷村は吉敷毛利の給領地である。野村家は代々、小都合・給庄屋を勤め、天保一四・一五年には、一時、吉敷毛利の開作地である秋穂黒瀧村で入庄屋を勤めた。文書は文化以降明治初年に至る公・私文書からなり、山口目代所仕法、伝人馬加勢人馬付取帳など伝人馬関係文書がまとまって存在する。また、日記として嘉永三年から万延元年に至る野村九兵衛の御用日記がある。四十六年の台風により収蔵庫が倒壊し、以後搬入したことから、一部を除き文書の保存状態は悪い。

17 金子家文書

山口市黒川字間 金子常雄 原蔵
寄贈 昭和33年8月 二九二点

金子(かねこ)家は山口宰判平井・黒川・矢原などの各村庄家を勤めた家で、宝暦検地以来の村落史料を伝えている。田畠・山林の絵図類、米銀関係諸帳簿、普請関係諸帳簿の外、宗門改地下請状等がそのめばしいものである。金子家自体に関する私文書は残っていない。

18 金津家文書

山口市矢田 金津新治 原蔵

所蔵史料案内

購入 昭和33年3月 一六六六

山口宰判矢田村の庄屋文書。金津家は矢田村庄屋を勤め、給庄屋役を兼帯した。矢田村は御蔵入地および宍戸・篠川氏の給領地からなり、宝暦一三年の小村帳には有地与一右衛門知行地の名もみられる。文書は宝暦の矢田村御蔵入給領小村帳絵図、名寄帳、長野村との水論、小鯖村との入会地出入などの争論記録、井手普請文書がその中心をなす。なお、上矢田井手水利関係文書については、大内村上矢田井手水利文書(寛政九・一二年、享和元年)が別蔵されている。

19 林家文書

吉敷郡小郡町仁保津 林 靖 原蔵
寄贈 昭和37年 三七四点

林家は延宝年間以来、小郡宰判上中郷村の庄屋・大庄屋役を勤めた。同家十代の林勇蔵は幕末から明治初年にかけて大庄屋・勸農大庄屋を勤め、秀之進は明治初年に戸長、村長、郡・県会議員を勤めた。所蔵文書の大部分は、勇蔵・秀之進存内の公・私文書で、その主なものとして「勸農御内用諸控」(安政三)、「榎実御買入買敷付立帳」(安政三)等の勸農産物一件記録、協同会社関係議案をはじめとする県会議記録(明治七)、質証文その他の土地売買関係文書がある。

なお、林家文書の大半は山口大学農学部に収蔵されており、その内容は「山口大学農学部所蔵庶民史料目録第一集」に紹介されている。

20 山内家文書

吉敷郡秋穂町 山内芳三 原蔵
寄贈 昭和30年 四四六六
小郡宰判の大庄屋、それに秋穂・陶村などの庄屋・戸長・村長をつとめる。庄屋文書と、「協議書」「民費仕詰一件」などの戸長文書が主体をなす。大庄屋に關連しては、小郡・井関・岐波・二島・台道など小郡諸村の「足役算用帳」(天保三・四)・「献納金請払帳」(文久三)などがある。
山口市道場門前の山城屋酒造(宮崎只一)からの寄贈。

22 桜井家文書

宇部市居能町(藤曲) 桜井健一郎 原蔵
寄託 昭和43年3月21日 一二四四
桜井家は厚狭郡藤曲村で畔頭を長く勤めた。所収文書は、宝曆十三年の阿川毛利氏知行所田島小村絵図を除けば大部分が幕末から明治三十年代にかけてのものである。藤曲・居能一帯は厚東川口の潟地で、藩政期から明治期にかけて多数の開作が行なわれたが、当文書には、「厚狭郡藤曲村御開作田島当春定名寄帳」などの名寄帳が多く、この地域における耕地拡大の動向の把握に参考となるものが多い。明治年代のものでは開作の石・人夫などの明細のほか、宗門請状などが含まれている。

21 部坂家文書

宇部市東岐波区北原(岐波村)
寄贈 昭和32年9月 二六〇点余
部坂家は、東岐波村にて庄屋・戸長を数代にわたって歴任した豪農。同家文書は宇部市立図書館に千数百点に及ぶものが保管されている。当館所蔵文書は、同文書の内、丸尾崎波戸の修築に關するものが一括して集められている。特に、文政年間、部坂発藏による波戸の根本的改修と、その後、開設された越荷会所などに關する史料が主である。

23 三隅家文書

厚狭郡楠町万倉 三隅寿代 原蔵
寄贈 昭和47年3月 五七点
宇三郎代の万延元年に舟木宰判万倉・今富村棟並において畔頭役を勤める。明治二十年代に入り、千代之丞が同地区の山野総代を勤めていたことから、文書中、「官有原野柴草払下願」(明治二八)、「國有原野柴草払下諸願書」(明治三四)など、明治二十年・三十年代の奥万倉村官有林野關係文書を主とする。

24 坪井家文書

美祢郡秋芳町 坪井宗一 原蔵
寄贈 昭和45年5月1日 一七七七
青景村の庄屋・戸長。明治当初の「田畠坪附人別名寄帳」(明治三三)、および明治十年代の「役場経費勘定帳」(明治十二・十五)、「協議費徴収簿」(明治十三)などが比較的まとまっている。明治前期の教科書類も含まれている。

26 大谷家文書

阿武郡阿東町生雲 大谷忠敬 原蔵
寄贈 昭和32年12月 八六六
この文書は、安政年間から明治十年代にかけての、蔵入米銀の請払や貸付關係の根帳、修甫米銀關係の証文、或いは郡内勸農關係証憑等、藩政末期の奥阿武郡ないし生雲村の支配や産業の実態の一端を知るに必要な史料である。大谷家は代々生雲村庄屋或いは奥阿武郡の大庄屋を勤めた家筋で、特に明治維新時には郡内の公共のことに尽して信用を得た。第十代の久七はその叔母が久坂玄瑞の母であった關係から、その援助にあたったほか、中山忠光や沢宣嘉の潜入に際して客遇したこともあり、諸隊關係の史料も散見される。

25 市原家文書

阿武郡阿東町嘉年下 市原克巳 原蔵
寄託昭和43年3月21日 一、〇五五五
返却 昭和46年3月3日 一八八
市原(いちのはら)家はもと石州津和野の吉見家に仕えていた武士で木村氏を名乗っていたが、吉見家断絶後は帰農し、長州嘉年に居住して庄屋役となり、石州居所の市原をもって市原氏と改めた。代々庄屋役を勤め、明治に入って戸長・村長・県會議員などを歴任したため、嘉年地方の村落史料をはじめ、明治期の山口協同会社の奥阿武關係史料が圧倒的に多いのが特色である。なお、中世期の古文書一八点は当家の御要望により返却した。

27 岡家文書

阿武郡福栄村 岡氏 原蔵
約一〇〇点
岡家は阿武郡福井村において庄屋役、大庄屋役を勤め、元治元年には勸農大庄屋格に任命され、明治期には、当主岡十郎氏は近代捕鯨法をノルウェーに学び、帰朝後、捕鯨会社を創設した。文書は「福井宿人馬賃金受払帳」「花房様御宿藩役割人数番飯人別仕出帳」など宿駅關係文書や「力被差免」「大庄屋格被仰付」など岡家の勤功に關係ある奉書類、その外「産物關係書付」などの文書が含まれる。

28 上村家文書

阿武郡阿武町宇生賀 上村照男 原蔵

購入 昭和44年

八二五点

宇生賀村をはじめ、近隣の福田・高佐・吉部・片俣村などの庄屋・戸長・村長それに県会議員をとめる。「御蔵究一件」(文久二〜明治五)・「石下一件控」(明治四)などの庄屋文書をはじめ、明治十年代の「戸長事務引渡一件」・「民費一件書類」などの戸長文書、および県会資料からなる。県会関係のものの中には、明治二十年代の「山口県勸業年報」・「山口県警察統計書」が数点入っている。

旧県会議員所蔵史料の調査収集事業によって受け入れた。